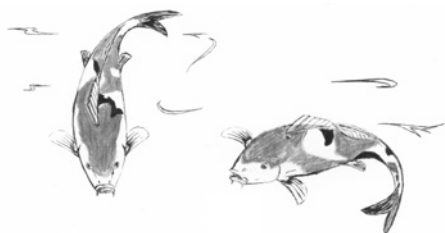

慈 恵



令和 5 年 No.82



春

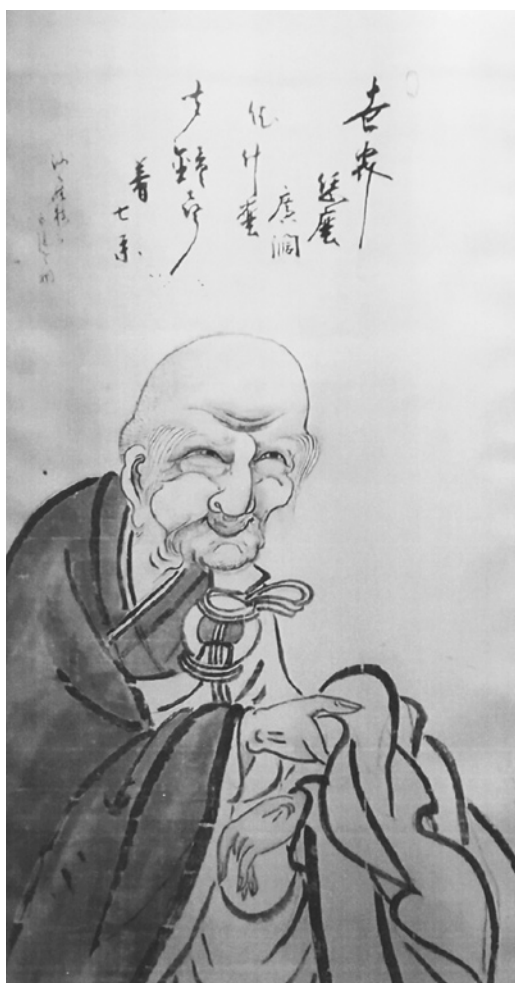
宗教法人 慈 恵 院

付属 多摩犬猫霊園

鑑賞

「雲門禪師像」

白隠筆



これまで紹介してきました白隠禪師の三幅対三点最後の作品、雲門宗の開祖雲門文偃の軸装です。

中国唐代末の禪僧で名声を聞き常時1000人ももの修行者が集まったといわれている。

讃文は『無門関』第十六則「鐘声七条」の公案で「舌界恁麼に広濶たり、什麼に依つてか鐘声を聞きて七条を着す」意識すれば「世界はこんなに広くかつ大きい、合図の鐘が鳴ったといつてなぜ袈裟を着けてのこのこ出て行かねばならないのか」ということです、

軸に描かれている雲門さんが、今当に七条袈裟を身にまとい出頭せんとする姿にはなんとものなげいているかのようにも思えるが、それはまた禅の世界特有の日々修行に励んでいる者達への問いかけになっていることに間違ないであります。



平泉中尊寺金色堂は

今も光に満ちあふれている。

岩手県西磐井郡平泉町の関山に建つ天台宗東北大本山中尊寺。寺伝には、850年(嘉祥3)慈覚大師円仁が開創し、弘台寿院と称したが、清和天皇より中尊寺の号を賜ったという。

その後、平泉の地に入った奥州藤原氏初代清衡が、1105年(長治2)に堀河天皇の勅命をうけて堂塔伽藍を整備した。当初の伽藍は、堂塔40余、僧坊300余という壮大な規模だった。そのなかに多宝塔あり、釈迦堂あり、二階大堂あり、そして燦然たる金色堂があった。すべての堂内は、京の工芸技術を導入して美の極致を尽くした仏像・仏具で満たされた。

1337年(建武4)、堂塔伽藍のほとんどが野火による大火で焼失

したが、かろうじて金色堂と経蔵、3000余点の宝物が後世にのこされた。しかし、3代秀衡没後500年を経た1689年(元禄2)、奥州を旅した松尾芭蕉が嘆いたほど金色堂は荒廃していた。

金色堂の本格的な修理は、明治天皇から保存費が下賜され、1897年(明治30)に実現した。その後中尊寺は、



1958年(昭和33)4月に別格大寺に昇格、天台宗東北大本山の称号を与えられた。1962年(昭和37)からはいよいよ金色堂の解体修理に着手、東京へ移され、6年の歳月をかけてみごと復元され、新覆堂に収められた。

1950年(昭和25)の藤原四代の遺体学術調査によって、中尊寺は全国的な脚光を浴び、その後、一山が結集して讃衡蔵(宝物館)を新築、山内の宝物が集められた。経蔵内の「中尊寺経」の修理もはじまる。そして2000年(平成12)に、開山

1150年を記念して新讃衡蔵が開館、貴重な宝物が収められた。

国宝・重要文化財26件3000余点の至宝を守って、中尊寺は今、信仰と科学の力によって、伽藍も仏像も新しく現代によみがえった。

〈所在地〉

岩手県西磐井郡平泉町

平泉字衣関202

〈交通〉

JR平泉駅より岩手県交通バス
水沢行きで中尊寺下車、
金色堂まで徒歩15分

※小学館「古寺をゆく」参照

次回は興福寺



金色堂

「面白い」ということ

柳澤獣医科（足立区）

院長 柳澤 文昭

獣医師国家試験に合格し
大学病院で臨床を始めたばかりのことです。非常に珍しい症例の主治医を上長に命じられ飼い主さんへの説明を任せられました。

「この子は非常に面白い症例で…」

と話し始めた途端、飼い主さんに言葉を遮られました。

「面白いとは何事だ！」

「面白い」とは研究者同士の会話では日常的に使われる言葉です。興味深いか珍しいというニュアンスで使います。人気ドラマ『ガリレオ』で福山雅治さん演

じる主人公湯川准教授が言う「実に面白い」がそれです。

けっして笑っちゃうほど可笑しいという意味ではないのですが、そうとは伝わらず誤解されてしまったようです。

先輩獣医師の助けを借りて誤解は解かれ、どうにか事なきを得ました。

それ以来、飼い主さんに説明するときに「面白い」という言葉を使わなくなったのは言うまでもありません。

でも、ちょっと待ってください。言葉のチョイスに

は問題がありますが、ここが少し違う、ここが何か変だ、つまり「面白い」という気付きがなければ、日々の診療はただのルーチンワークになってしまいうではありませんか。それでは流行りのAIに診断処方を選せた方が余程マシです。

怪我も皮膚病も下痢嘔吐も心臓病も私たち獣医師が毎日目にする疾患は基本的に大きな違いはありません。九割以上は診断も治療もかわりません。そういう意味では「面白い」ことなどあまりないのかもしれない。

それでもなおひとつひとつどこか違うところ、何か変なところ、「面白い」ところを探します。それが治療や問題解決の鍵になるかもしれません。

臨床獣医師の仕事は動物たちの病気や痛みや苦しみを取り除く手助けをすることです。そして「面白い」ことを探すということはそのための一番の手段なのですね。

うれしいことにその飼い主さんは、それからずっと私が大学病院を辞めるまで、私を指名して通ってくれました。

あの日から四十有余年が経ちました。

還暦を過ぎた今でも毎日新鮮で、いつまでも飽きずに仕事を続けられているのは、いつも「面白い」ことを探しているからに違いありません。「面白い」と口にすることはもうありませんが。



お願いとご案内

読経、塔婆の連名供養について

長年に渡り皆様の動物達を連名にて供養してまいりました。

この度、令和5年の春彼岸より読経1座に1体、塔婆1基に1体として、

連名の場合は『諸霊』とさせていただきます。(右図参照)

今後は人と同じように供養を行ってまいりますので、
ご理解の程宜しくお願い致します。



法要会の新会場について (※府中本山のみ)

令和5年春彼岸より会場が従来の『瑞法殿』から新設の『本堂』へ変更になります。
これまで同様、ワンちゃんやネコちゃんは抱っこした状態でご参列が可能です。
スロープもございますので、車いすの方もご参列いただけます。

※中〜大型犬をお連れの方は本堂正面テント内にてご着席をしていただきます。

※車いすの方は本堂に入る前にタイヤを水拭きしていただきます。



「第12回インターペット」に慈恵院が参加します！

インターペットとは2011年からスタートした、ペットと一緒に楽しめるライフスタイルを提案する製品・サービスが勢ぞろいした日本最大級のイベントです。

慈恵院は葬祭・供養に関するご質問をお受けする予定です。

開催日：2023/3/30(木) ～ 4/2(日) 10:00 ～ 17:00

※※3/30(木)はビジネス商談日、3/31(金)～4/2(日)は一般公開です※※

場所：東京ビッグサイト (ゆりかもめ線：東京ビッグサイト駅 下車徒歩約3分)